

(様式2-2)

令和2年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校・指定校群 (三豊市立麻小学校)

2 実施の内容

(1) 保幼小の交流

低学年児童と次年度入学する幼稚園・保育所の幼児が交流をすることによって、幼児のスムーズな小学校生活への移行、また、低学年児童の上級生としての自覚を育て、行動ができるよう意識を高めていく。新型コロナ感染防止のため十分に関わることはできなかったが、各行事を行う際に、園児には見学してもらい小学校の様子を見てもらった。

(2) 地域との交流

① 2・3年生ジャガイモ・5年生サツマイモの植え付け・収穫・焼き芋大会

学校近くの畑を借りて、地域の方の指導を受けながら、作物の植え付けや世話、収穫、収穫を行う。また、冬には、それらの作物を用いて焼き芋大会を行った。農業体験をする中で、地域の方の指導をもらい、地域の方と会話をしたり、作業をしたりすることで、農業に対する意識やふるさとに対する誇りをもてるようにしたり、感謝の気持ちを育んだりした。

② 6年生：西香川病院との交流

例年は、現地を訪問して鼓笛隊の演奏を行ったり、会話を楽しんだりする交流を行っていた。本年度は、高齢の方が多いので、学級で話し合いの結果、コロナ感染拡大防止のため現地の訪問を行わず、手紙やビデオレターでの交流を行うことにした。

(3) 異学年の交流

本校では、縦割り班による活動をしている。生活や運動・栽培活動を通して上学年が中心となって下学年に教えたり導いたりすることで上学年としての自覚や自信をもてるようにしたい。新型コロナ感染拡大防止のため、全校生が一堂に集まったり、直接触れあったりしての交流の機会は減少したが、以下のような活動を行った。

① 1年生との交流活動

新型コロナ感染拡大防止のため中止になった「1年生歓迎春季遠足」の代わりとして9月30日に行った。事前に、「1年生と交流しよう」と児童会から各学級に提案をした。各学級では1年生とコロナ禍でもいっしょにできるゲームを企画・進行した。また、児童会は各学年のゲームの調整をしたり、全校一斉にクイズ・校内ウォークラリー企画・運営したりした。全校ウォークラリー縦割り班ごとに分かれ、6年生を中心に校内を巡りながら課題を解決していくという活動を行った。

② 全校：麻っ子発表会2020

春季校区運動会が中止となり、10月に「麻っ子発表会2020」と称して、体育・表現運動等の発表会を学校行事として行った。本発表会では、高学年児童が中心となって準備・運営にあたった。また、幼稚園児が見学を訪れ、幼小の交流も行うことができた。

競争種目では、学年団(低・中・高学年)に分かれて練習を重ねる中で、意図的に設けた話し合いの場では、児童同士が話し合い、作戦を立てるなど、共通の目的意識の中でなかま意識の育成や自己実現を図った。

表現運動の発表では、学年の発達段階に応じて児童が中心となって考えた内容の発表を行った。6年生は、表現運動の最後に、学級のなかで考えた自分たちの思いや決意を全員で発表した。学年後半・卒業に向けての意識を高めることができた。

③ 縦割り班活動

(ア) プランターの花

春に、プランターの花を各自が育てている。縦割り班ごとで協力をしながら花を育てている。共通の意識を持たせることで下学年は上学年の姿から態度や考えを見て学ぶ機会ができた。その中で異学年間の心的距離を短くしたり、相手に対する思いやりや尊敬の気持ちをもてたりするようになった。

(イ) かがやきの花

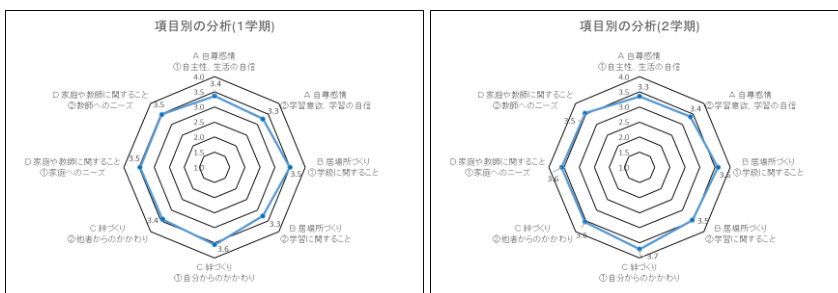
アや普段の生活の中から他学年・同学年児童のよい行いをカードに書き、渡すことで

お互いの良さや感謝の気持ちを伝え合っている。また、掲示をして全校に広め、それを積み重ねている。令和2年度も継続して行い、さらに児童の自己有用感・肯定感が育つようにした。

3 成果

(1) アンケート結果の変遷

アンケートの結果より、全体的には多くの項目が0.1～0.2ポイントの伸びを見せている。特に、項目BとCでは①②共に伸びが見られた。児童同士の関わりが自他共に増えたことにより、学級や学習活動のなかにおける居場所ができてきたものと考えられる。一方で、A①のように低下が見られるものもあるが、項目A全体としては、0.1ポイントの伸びである。項目B・Cの伸びが見られたことから、今後、集団の中における役割の達成感を引き続き味わわせることでポイントの伸びにつなげていきたい。



(2) 自発的・自主的な交流活動における子どもの様子



プランターの花



サツマイモの芋掘り



代表委員会



1年生との交流(校内ウォーク)



1年生との交流(各学年とのゲーム)



児童の作文



麻っ子発表会 2020(6年生の発表)



麻っ子発表会 2020(色別リレー)



かがやきの花

(3) 総括

- 学級単位や縦割り班による交流が中心となったが、その分児童一人ひとりが多くの友だちと関わることができたと考えられる。児童同士が互いに関わる機会を増やすことで、児童は自分から人間関係を作り、その中で心の安定がはかれる居場所を見つけていくことができた。
- 自分たちで考えたり、決めたりしたことで、児童集団の目的が共有されやすかった。また、積極的に取り組もうとする児童が増え、達成感や成就感につながった。
- 児童会や6年生などを中心に学校全体を動かす活動をもっと多く取り入れることで、さらに、児童が多くの人(児童・保護者・地域の人)に認めてられるようにしていきたい。その際には、児童が中心となって企画・活動できるようにしていく必要がある。